

# 交渉速報

J R 貨物労組中央本部業務部

2020年11月5日

No.9

## 会社：リーマンショック後並みの状況にある

## 組合：組合員の奮闘を無駄にする会社姿勢は許さない！！

### ～2020年度 年末手当第4回交渉報告～

中央本部は本日10時00分より第4回交渉を行ない、会社は現時点における考え方を以下のとおり明らかにしました。

- ①本年度は中期経営計画の2年目であり、鉄道を基軸とした総物流企業グループをめざし鉄道事業部門の収支改善にむけた施策を掲げスタートした。5月に緊急事態宣言は解除されたが経済は先行き不透明となり、10月期改定で年初計画より100億円下方修正した。10月単月で+2.3億円(100.2%)と計画を上回っているが想定より大きく下回っている。
- ②新型コロナウイルス感染拡大防止対策を行ない、現時点、社員から今まで1人も感染者を発生させていない。指定公共機関として現業・非現業を問わず役割を果たしてきた社員に感謝申し上げる。
- ③7月豪雨災害の影響で肥薩おれんじ鉄道が不通となった期間、収入減少を最小限に抑えるために代行トラックの誘導など慣れない作業に就き、社員だけにとどまらず家族の支えがあって完遂できた。重ね重ね感謝申し上げる。
- ④新人事制度が導入され1年が経過し、評価制度は1サイクルが終了した。現在は2サイクル目の上期評価中であるが、様々な問題点について貴組合から指摘されており、一つ一つに対して改善にむけた議論を進めていきたい。
- ⑤組合の主張を真摯に受け止め社内議論した結果、現状はリーマンショック後の経営状況にあり終わりが見えない。リーマンショックより悪化することも否定できない。したがって現時点、年末手当についてはリーマンショック後並みと考えている。

中央本部は会社の考え方に対し、以下の通り強く指摘しました。

- ①減収を理由に「我慢しろ」と聞こえる。この間の組合員の努力はどこに組み込まれているのか。リーマンショック時の状況と違い会社の収支改善は進んでいる。改善のためにも我々は精一杯奮闘してきた。会社の考え方では組合員のモチベーションは下がる一方である。
- ②収入計画は下方修正したが、10月期改定の新しい目標を立てて100%を達成している。その結果に対して「ありがとう」の言葉だけなのか。組合員が頑張った結果に対して年末手当に反映させるべく、経営判断を今すべきである。
- ③経常利益黒字とした下期計画達成にむけて頑張っていくのは組合員である。貨物会社の回答次第でグループ会社の年末手当にも影響してくる。総物流企業グループと言うのであればリーディングカンパニーの貨物会社として、その姿勢を見せるべきである。
- ④本日、会社から示された考え方では到底受け入れられない。再考を求める。

組合の指摘に対して会社は「会社の考えは現時点のものであり、組合の指摘については回答指定日までに社内で議論していく」と回答しました。

本日以降、山場の闘いに突入します。新型コロナウイルス感染対策を行ないながら安全・安定輸送に努め、計画通りの収入確保を行なっている組合員の努力に、会社は応えなければなりません。中央本部は回答指定日にむけて最先頭で奮闘していくことを決意し、第4回交渉報告とします。

次回交渉(回答指定日)は11月12日(木)です。

以上